



夏季のネギ軟腐病や白絹病の発生に注意しましょう

夏季の高温期に降雨が多くて土壌湿度が高まると、軟腐病や白絹病などの病害が発生しやすくなります。

令和2年は7月に降雨量が多く、日照時間の少ない日が続き、梅雨明けも遅れました。その後、8月には極端に高温で少雨の日が続きましたので、ネギが生育不良で経過し、さらに、軟腐病や白絹病が多発生しました。

今年の関東甲信の梅雨入りは6月6日と平年より1日、昨年より8日早い発表となりました。これから1か月の気象長期予報(6月16日発表)によると「平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は高い確率60%です」と予想されています。多雨量や日照不足の後、高温の日が続いたりしますと生育に影響し、病害の発生が重なると品質不良や減収を招く可能性がありますので、管理作業に十分注意する必要があります。

<軟腐病の発生と被害>

病原菌の細菌は、レタスやキャベツ、ハクサイをはじめ多くの作物に軟腐病を発病させる多犯性で、前作の被害残渣や雑草等の根圏で長く土中で生存します。ネギでは強風や土寄せ時に生じた葉鞘下部や根などの傷口から感染して発病するケースが多く、初夏から初秋にかけて土壌水分が高く、温度が高い時に発生します。このため、夏季の長雨や集中豪雨などで数日間圃場が湛水や浸水する低湿地やくぼ地、水田転作畑などの土壌湿度の高い圃場で多発生します。発病株は生気がなくなり、生育不良をおこして軟化腐敗し、特有の悪臭を放ちます。

<白絹病の発生と被害>

病原菌はカビで、高温を好み、更に多湿状態のときに発病やまん延します。このため、初夏～初秋にかけて発生しますが、特に高気温で乾燥の後に、長雨で土壌湿度の高い状態が続くと多発生します。本菌も多くの作物に感染する多犯性で、ネギなどユリ科、トマトなどナス科、マメ科などを犯す他、多くの花き類や樹木類などでも発病します。

伝染源は前作の罹病部にできた菌核(茶褐色の粟粒大)が主で、地表や浅い土壌中で越冬したものが好適条件になると発芽して白色菌糸を伸ばし、作物の地際部を中心に発病します。発病株は生育が不良となり、葉の黄化や株が萎凋して、後には枯死してしまい、病斑部には再び菌核を形成します。

<軟腐病や白絹病の防除対策>

1. 排水溝などで圃場の排水対策を行い、土壌表面が滞水や長期間過湿の状態にならないようにします。
2. 白絹病は、多量の未熟有機物を作付直前に施用して腐熟が十分でない、病原菌が増殖しやすいので注意します。また、例年多発生する圃場は、作付前に土壌くん蒸剤による土壌消毒を行います。
3. 次作以降の対策として、両病害とも発病株は早期に圃場から持ち出し、腐熟させるなど適切に処分します。
4. 発病の恐れがある圃場では、薬剤の予防散布に努め、病害の早期発見、早期防除により発病まん延を防ぎます。なお、薬剤散布に際しては、使用する**薬剤の収穫前日数に十分留意**し、十分な薬液量で、株元を中心に丁寧に散布します。

表1 ネギ軟腐病の主な防除薬剤

(令和4年6月21日現在)

薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
オリゼメート粒剤	6 kg/10a 株元散布	土寄せ時 (収穫30日前まで/2回以内)	P2
スターナ水和剤 ※	2,000倍	収穫7日前まで/3回以内	31
ナレート水和剤 ※	1,000倍	収穫14日前まで/3回以内	31とM1
カスミンボルドー	1,000倍	収穫14日前まで/2回以内	24とM1
Zボルドー	500倍	- / -	M1

注1) 薬剤名の※印は、有効成分にオキシリニック酸を含みます。有効成分の総使用回数に注意してください。

2) 表1及び2の分類欄には、FRACコードを記載しました(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)の連用は避けてください。

表2 ネギ白絹病の主な防除薬剤

(令和4年6月21日現在)

薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
リゾレックス粉剤	20~30 kg/10a 株元散布	土寄せ前 (収穫14日前まで/3回以内)	14
モンカット粒剤	4~6 kg/10a 株元散布	土寄せ時 (収穫30日前まで/3回以内)	7
フロンサイド粉剤	15 kg/10a 株元散布	土寄せ時 (収穫21日前まで/2回以内)	29
カナメフロアブル	4,000~8,000倍 株元散布	収穫前日まで/4回以内	7
メジャーフロアブル	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	11
セイビアーフロアブル20	1,000倍	収穫前日まで/3回以内	12
ロブラール水和剤	500~1,000倍 (1ℓ/m ² 株元灌注)	収穫14日前まで/3回以内	2
モンガリット粒剤	4~6 kg/10a 株元散布	土寄せ時 (収穫14日前まで/3回以内)	3

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。